

新風

平成26年11月28日
多治見市立陶都中学校
No.8

学力学習状況調査結果から考えること

多治見市立陶都中学校 校長 松山 央^{ひろし}

本格的な冬の到来を感じる頃となりました。それと共に日の暮れる早さにも驚かされます。最終下校時刻は4時35分となっていますが、家に帰り着く頃はかなり暗くなっていることでしょうか。一層の安全留意に心掛けたいものです。

さて今回は、4月に行われた小学校6年生と中学3年生を対象とした全国学力学習状況調査について触れたいと思います。個々の結果につきましては、教育研究所からの結果概要と共に個人票を各生徒に配布することにより、後期の最初にお知らせ致しました。それを受け、この号では改めて本校の結果概要と、それを基に今現在学校として取り組んでいることや今後取り組もうとしていることなどについて、お知らせできればと思います。

まず学力調査については、国語、数学共に良好な結果でした。特に数学については、全国に比べて高い数値が出ています。国語では、応用の力を問うB問題において、全国との比較では上回っているものの、やや低い状況でした。その中でも「表現されているものの見方や考え方について、根拠を明確にして自分の考えを書く」という設問や表現技法に関する設問については、弱さが見られました。

この学力調査と共に質問紙調査があります。これは、日頃の生徒自身の学習や生活について全部で70程の質問に答えるものです。主な結果として数学については、授業が分かり、好きだと答えている生徒が多いことが分かりました。反面、国語の授業については、授業が分かり、好きだと答えている生徒の割合が平均より低くなっていました。また、「ものごとを最後までやりとげて、うれしかったことがある」とか、「自分には、よいところがあると思う」といった質問に対し、肯定的に答えている生徒が多いことが分かります。家で授業の復習によく取り組んでおり、計画的な学習姿勢もうかがわれます。ただ、休日の学習時間が少なく、起床時間が乱れていることや平均1時間以上のゲーム、ネット利用などの姿もあり、基本的な生活習慣の課題が見られます。地域行事への参加が少ないことも分かりました。

以上のような結果を全教職員で共有し、日頃の学習・生徒指導に生かしてきているわけですが、特に学習に関しては、指導改善の方針として次のようなことを挙げています。

- ① 基礎的・基本的な知識や技能の定着をより一層図っていく。
- ② 仲間との学び合いを大切にし、「できた」「分かった」といった実感を味わわせる。
- ③ 既習内容で身につけた知識や技能を利用し、文章や事象、資料から必要な情報を取り出し、自分の考えを工夫してまとめて書いたり、話したりする力をつける。
- ④ 自分の力で主体的に課題解決に向かう力をつける。

特に②にも関わることですが、①の「基礎的・基本的な知識や技能の定着」は、何と言っても大切なことであり、1年生のうちから徹底していかなければなりません。その意味で、1年生の数学科の授業ではこれまでに1クラスに複数の職員が入り、スタート時点での定着を図ってきましたが、12月からは、これまでの定着状況を踏まえてのグループ別授業を実施していきたいと考えています。自身の習得状況に応じた学び方の選択ができるようにしたいと思います。近々、学校より実施のご連絡をさせていただきます。何とぞ趣旨をご理解いただき、ご家庭でのお声かけをも願いたいと思います。

なお、こうした積み重ねの必要な教科においては、なおさらに小・中学校の連携が必要と思われる。



授業内容は、当然小学校から中学校へと学習指導要領に基づき引き継がれていくわけですが、それらをどのような学習規律や学習形態で獲得してきているのかは、案外見過ごされがちです。中学校には中学校のやり方があるわけですが、よりスムーズな接続を目指す上で、互いの学習実態を教師自身が把握しておくことは必要なことだと思います。これは、④の「主体的に課題解決に向かう力」の習得にも関わってきます。せっかく小学校で身につけてきた学習能力を中学校で後退させてしまっただけでは何にもなりません。今後、校区の小学校のご協力をいただきながら授業見学などを活発に行っていきたいと考えています。

③の「既習内容の上に立ち、必要な情報を取り出しながら自分の考えをまとめていく」ことは、一朝一夕で身に付くものではありません。正にここにこそ私たち学校側の授業改善のポイントがあるかと思われれます。こうした学習活動をより多く組み込んだ授業を創り上げていきたいものです。また、総合的な学習の時間についても改善を加えていきたいと考えています。さらにこのことに関わってまだ構想の段階ですが、来年度の夏休みには、何が自分の興味のあることに取り組ませたいと考えています。研究であれ作品づくりであれ、生徒自身の動機に基づき、時間をかけて調べたり創作したりして形あるものに仕上げていく活動は、大変意味があることだと思います。かつて行っていたものを新たに復活させることには、より慎重な準備が必要かと思われれますが、実現できればと考えています。

基本的な生活習慣につきましては、日頃の生徒との関わりをより大切にしながら、定期的な生活アンケートなどを通して、生徒の自己肯定感の変容や授業・学習への意識の変容をしっかりと捉えて必要な指導・支援をしていく必要があると考えます。今後の三者懇談などの折りに、是非とも保護者の皆様方との連携を図っていきたく思います。どうかよろしく願いいたします。

地域への行事参加が少ないというのは意外な感じがしましたが、小学校でもそのような傾向とのことでした。でも、学校の資源回収に参加しきびきびと動いたり、「日本一きれいなまちづくり」の清掃活動に参加し地域の美化に貢献したり、吹奏楽部として地域の催し物に引っ張りだこだったり、とても頼もしい限りです。今年の多治見まつりでは、うながっぱ御輿を担いで市内を回った有志もいました。また、精華校区青少年まちづくり市民会議の子どもスタッフとして活躍している子もいます。まだまだ、数は少ないかも知れませんが、地域の方と触れ合っただけで地域に貢献することは、大変貴重な学習機会です。今後とも、途切れることなく続けていければと考えています。



以上、ご報告させていただきました。

脳科学者の講演から学んだこと

多治見市教育委員会

10月25日(土)に下呂市で第70回東海北陸ブロックPTA研究大会2日目が開催され、脳科学者の澤口俊之氏の「子どもの夢を叶える脳」と題しての記念講演がありました。

その講演の中で、幼児期から子どもの脳の前頭前野を発達させ、人間性知能(HQ)を育てることが、好奇心を育て、思いやりや協調性のある大人に成長させ、幸せな人生を過ごすことにつながることを、根拠となる画像やデータを基に話をされました。

また、前頭前野を発達させるためには、子どもを外で仲間と一緒におもいっきり遊ばせることが必要であることや、テレビゲームや炭酸飲料などは、発達のためには良くないとのことでした。いろいろな受け止め方や育て方があるとは思いますが、今、またこれから子どもたちの生活を見直す機会があれば、家族で話し合う時の話題にしてみてください。